

金属材料を起因物とする崩壊・倒壊の死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	3	14～16	翌日入荷予定の鋼材の置き場を確保する作業を行っていたところ、作業場所の横に積まれていた角パイプ40本束と約30本のバラ積みが被災者の方に崩れ落ち下敷きになったもの。	80401	10～29
2021	5	14～16	自社で使用する予定の鋼鉄製架台の製作中、2本の柱に立て掛けた230cm×210cm×厚さ7mmの鋼板を溶接により取り付けようと準備していたとき、鋼板が倒れて下敷きになったもの。被災者は救急搬送され、ICUにて救命治療を受けていたが、出血性ショックにて死亡した。	80109	1～9
2021	8	10～12	マルチクロン集塵機の組付け作業中、サイクロンを取り付けるために集塵機の上部を取り外していたところ、集塵機に取り付けられていた取付板（2.28m×1.98m、厚さ9mm、約270kg）が倒れてきて、同取付板を押えていた被災者が取付板の下敷きになり、死亡したもの。倒れた取付板は集塵機本体にボルトで仮止めされていたが、組付け作業の都合上、ボルトを全て外していた。	11301	1～9
2020	3	18～20	一次下請けとして入場している設備工事現場の帰途、作業員1名が市内の自社倉庫に立ち寄った。同作業員の帰社が遅いことから、心配した同僚が同倉庫に見に行ったところ、倉庫内で大量の配管パイプが倒れており、同作業員が倒れた配管パイプと傍の階段手摺との間に挟まれているのを発見したものの。発見時には意識と呼吸がなく、救急搬送先の医療機関で死亡が確認された。	30309	1～9
2020	9	0～	鉄骨平屋建ての農作物貯蔵施設の新築工事において、梁の地組を行っていた被災者が、梁の中央部を油圧ジャッキで持ち上げていたところ、梁が被災者の方に倒れて、下敷きになったもの。梁は2本のH型鋼材を仮組して繋げた	30201	1～9

		2	状態、H型鋼材は高さ800mm、幅300mm、長さ8.7m、繋げたときの全長は18.3m、重さは約5.2tであった。架台は転倒方向に約2度傾斜していた。		
2020	11	8 10	資材置場にて、関連会社の労働者が移動式クレーン仕様のドラグショベルを用いて、車両積載型トラッククレーンの荷台から荷下ろしした敷鉄板2枚（1枚の重さ約800kg）をH鋼の柱に立てかけた。被災者が鉄板間に挟んだバタ角を調整していたところ、1枚の鉄板が被災者の方向に倒れてきて被災者の胸部に当たり、被災者が死亡したもの。	30106	1～9
2020	12	12 14	足場の資材置き場にて、被災者が一人で、足場部材の結束作業をしていたところ、隣に積まれていた支柱の束（高さ1.8m）が倒壊し、下敷きになって死亡したもの。	30209	10～ 29
2019	2	8 10	事務所ビルのレイアウト変更工事において、作業員2名で、壁に立て掛けて置かれていた鋼製パネル（部屋の間仕切りに使用するもので、長さ271cm×幅89cm、厚さ12.5mm）の仕分けにあたり、表面に貼られた取り付け場所の表示を確認するため、一枚ずつめくって、めくったものは2人で保持しながら進めていたところ、手前に倒れてきた同パネル（9枚）を支えきれず、1名がその下敷きになったもの。	30203	10～ 29
2019	2	10 12	倉庫内において、被災者が、アルミ建材（長さ4m、重さ5キログラム～7キログラム、50本～100本）を選定中、荷が崩れて下敷きとなり、胸部圧迫により死亡したもの。	30309	1～9
2019	11	10 12	工場内で2回程大きな音が聞こえたため、音が聞こえた方を確認すると、8段に積まれていた鋼材（トラス材）が崩れ落ち、近くにいた被災者が鋼材の下敷きとなり、右側頭後頭部から出血しているところを発見されたもの。発見時、崩れた鋼材（トラス材）の上に床上操作式天井クレーン（2t）が別の鋼材（V材）を吊った状態で止まっていた。	11209	10～ 29
2019	12	8	被災者は天井クレーン（つり上げ荷重10t）で吊っていた缶体（直径210cm、缶厚60cm、重量370kg）を反転機の片側に定置させ、玉掛を解いた後、無線式コントローラーで同クレーンを横行させている際、同缶	11209	100 ～

		10	体が倒れて下敷きになったもの。		299
2018	2	14 ～ 15	ステンレス製鋼材の成型作業を行っていた被災者が、鋼材を仮置きする台（ラック）の内部で、鋼材に挟まれ意識を失っているところを同僚に発見された。	11001	100 ～ 299
2018	5	8 ～ 9	事業場内土場において、平置きされたクレーンガーダを、作業スペースの確保のため3段（約3 m）積み上げ、その横で部材のペンキ塗りをしていたところ、積み上げたクレーンガーダが崩れ落ち、被災者2名にクレーンガーダが激突し、1名が重傷、1名が軽傷を負ったもの。その後、重傷者の容態が悪化して死亡した。	11209	1～9
2018	9	8 ～ 9	被災者は、ロッド（直径19 mmの鋼線が、直径約1 m、幅約1 mの円柱状に巻かれているもの。重さ2トン）を酸洗するにあたり、ロッドを横置きにして立てかけ、鋼材をきつく固定していたバンドを切って、酸洗のため鋼線が重ならないよう、巻きを緩め、鋼材がバラバラにならないよう番線でロッドを緩めに縛る作業を行っていたところ、立てかけていたロッドが被災者側に倒れ、被災者は下敷きとなり死亡したもの。	11209	10～ 29
2018	10	12 ～ 13	製品である自動車のギヤボックスの金型（高さ約2 m、幅約1.7 m、厚み約50 cm；重量約2トン）を天井クレーンで移動し床上に直立させ、出荷前の梱包のため、包装用フィルムを巻き付けながら金型の周囲を回っていたところ、当該金型が倒れ掛かってきてその下敷きとなり被災した。	11301	30～ 49
2017	2	8 ～ 9	横梁ウェブパネルの組立作業において、横梁ウェブ（鋼板）の上に仮付溶接された大型リブが、組立溶接の準備作業を行っていた被災者の上に倒れ、被災者は頸椎と脳幹部を損傷し、病院に搬送された。その後病院にて死亡した。	11209	100 ～ 299
2017	2	14 ～ 15	被災者と代表者の二人で、コンクリート二次製品用鋼製型枠の改造作業（サイズ変更）を行い、その後、被災者一人で当型枠本体に型枠の開閉部分の鋼製の部材（重量約100 kg）を締付チャック・ボルトで固定作業中、この開閉部分の鋼製部材が倒れ、もう一つの型枠の間に胸部をはさまれた。	11209	1～9

2017	10	8 ～ 9	工場の敷地内において、2名でトラック荷台からH鋼を門型クレーンで荷降ろす作業を行っていたところ、玉掛けのため、荷台に上ろうとし荷台上のH鋼又はその下の端太角につかまったところ、H鋼（約750kg）が被災者側に崩れ、被災者の胸部に落ち、下敷きになり、心臓破裂により死亡した。	11209	10～ 29
2016	12	8 ～ 9	被災者が所属するラインの作業開始前ミーティングの後、当該ラインで製造している鋼管の原料となる幅10cmの鋼板がドーナツ状に巻かれたコイルの置場において、被災者が何らかの作業のため立てて保管しているコイルの倒れ止めを外したところ、厚さ10cm、直径164cm、重量1520kgのコイル1巻が倒れて、被災者が、当該コイルと床面の間に挟まれた。	11209	10～ 29
2015	9	16 ～ 17	片脚橋形クレーン（つり上げ荷重2.0t）でH形鋼（50×30cm、長さ10.05m）を移動している際に、積み上げに使用していた枕木（幅7.5cm、厚さ6.0cm、長さ105cm）が、切断し、H形鋼が崩れたため、片脚橋形クレーンの支柱とH形鋼に腹部を挟まれたもの。H形鋼は、2段積んだ上に枕木を乗せ、その上に5段積んでいた。5段積んだ重量は、約6t。	11209	10～ 29
2015	2	8 ～ 9	鉄工場において、作業員3名（うち1名が経営者）が金属製の鉄板を加工して非常用発電機用の煙突を作成していた。煙突は長さがあるため、いくつかのパーツに分けて組立られ、作成しながら次の工程で使用する鉄板の移動も行っていた。鉄板は14枚が鉄工場内に立てかけられ、そのうちの4枚を移動しようと3名で引きはがしていたところ、14枚全部が倒れ3名の上半身がはさまれた。	11209	1～9
2015	8	13 ～ 14	船体ブロック組立て作業中、被災者がブロック側壁の窓枠部分から身を乗り出して、当該側壁を支えているレバーブロックを巻こうとしたところ、当該側壁とともに倒れ、隣接するブロックとの間で顔面及び頭部を強打し、脳挫傷により即死したもの。	11501	10～ 29
		15	被災者は工場内に長さ6m、重量200kgの河川設置用柵を6列、自立させて並行に並べ、1列目の壁側に立って塗装作業を始めたところ、何らかの原因により奥側6列目から柵が次々に被災者側へ倒れ始め、被災者は柵と共		

2015	10	～ 16	に床に倒れ、頭部を打ち付けた。同僚らが直ちに救助し病院へ搬送されるも、意識不明になり、8日未明に死亡が確認された。作業時に保護帽の着用はなかったもの。	11209	1～9
2015	6	16 ～ 17	解体したクレーンの鉄屑をガス溶断していたところ、溶断していた鉄板が倒れて、災害当日に死亡したもの。	11209	30～ 49
2015	9	9 ～ 10	25tトレーラーにH鋼（計12本）を二段積みにし配送先へ運搬した。配送先で橋形クレーンでの荷卸しに備え荷を固定していた4か所のチェーンブロックを外し、荷台上で玉掛け作業の準備をしていたところ、H鋼（長さ12m×幅85cm×フランジ部30cm。重量2.878t）が倒れ、被災者は上半身を挟まれ死亡した。	40301	100 ～ 299
2015	3	18 ～ 19	被災者は天井クレーン（つり上げ荷重7.65トン、無線操作方式）を使用して鋼板コイル（鋼板をロール状に巻いたもの）の移動作業を行っていたが、先に移動させ立てかけて置いていた鋼板コイルのうちの1つ（コイルの直径173cm、幅20cm、重さ3.1トン）が倒れてきて、被災者が下敷きとなったもの。	11001	30～ 49
2015	10	0 ～ 1	ボイラー用の集じん機の碍管（がいかん）室（鉄製の箱状の構造物、断面が縦約1.3m、横約2.4m、長さ約9.5m）を製作する作業中、労働者2名で、鋼材のゆがみ等を手動のチェーンブロック2個で引張って調整していたところ、鋼材が突然倒れチェーンブロックを操作していた労働者の頭部を直撃した。	11301	50～ 99
2015	4	13 ～ 14	工場内に積み重ねられた建設用資材（H鋼）（以下「荷」という。）を積み替えるため、クレーン操作者が床上操作式天井クレーン（つり上げ荷重2.8トン）を使用して、仮置き場所に運搬し、地切り状態で荷の周囲の確認を行っていたところ、クレーン操作者と共に荷の積み替え作業をしていた被災者の叫び声が聞こえたため振り向くと、崩れ落ちた荷に胸部及び腹部を挟まれた状態の被災者を発見したもの。被災者は翌日死亡した。	11209	1～9

2015	10	13 ～ 14	被災者がL型の柱（長さ：4.9m×2m、重量：約1t）の研磨作業をしていたところ、柱が被災者側に倒れてきて、被災者の頭部に激突したもの。柱は、H鋼（横25cm×高さ45cm×長さ1000cm）に二点支持で設置されており、一点には水平にするための枕木を使用していた。	11209	1～9
2014	9	15 ～ 16	被災者は、直径2.5m、幅13cmの鉄製リング1つ、及び直径2.5m、幅25cmの鉄製リング2つの合計3つの鉄製リング（合計の重さ340kg）を手で転がして移動させ、仮置き場に並べた後に車輪止めをし、近くにあった鋼材（倒れ防止のために使用する）を取るために鉄製リングに背を向けて移動したところ、当該リングが横倒し、はさまれた。	170101	10～ 29
2014	4	7 ～ 8	溶接チャンネルラインにて、被災者は、給材架台上の番線結束された溝型鋼14本の束の番線を外したところ、鋼材が被災者側に崩れ、後ろに置かれていた別の溝型鋼の束との間に胸部等を挟まれ、死亡した。	11009	30～ 49
2014	5	9 ～ 10	鉄骨を橋形クレーンで移動させ、接地させた際、鉄骨が倒れ、運転していた被災者は、隣にあった別の鉄骨との間に挟まれた。	11209	10～ 29
2014	8	15 ～ 16	斜めに立てかけていた鋼材下部の突出した部分をガス切断作業中、鋼材が被災者に倒れ、鋼材の下敷きになった。	80109	1～9
2014	8	18 ～ 19	工事現場にて、柱筋の地組を行っていた際、組立中の柱筋6台を立てた状態でクランプ留めしていた架台が転倒。柱筋配筋作業に従事していた複数の被災者が、鉄筋等の下敷となり、うち2名が死亡した。	30209	1～9
2014	8	18 ～ 19	工事現場にて、柱筋の地組を行っていた際、組立中の柱筋6台を立てた状態でクランプ留めしていた架台が転倒。柱筋配筋作業に従事していた複数の被災者が、鉄筋等の下敷となり、うち2名が死亡した。	30209	1～9
2013	7	15 ～ 16	屋外作業場（出荷場）において、プラント設備である鋼製部材の出荷準備作業を行っていたところ、直前に移動式クレーンで積んだ最上段（3段目）の鋼材（1.5トン）が荷崩れし、コンクリート床面に落下、その際、同部材が塗装作業を行っていた被災者に激突した。	11301	1～9

2013	11	12 ～ 13	20トン天井クレーンを用いて、積み重ねた鋼板5枚（約5トン）の上に置き、玉外しを行ったところ、降ろしたに鋼板とともに積み荷（鋼板約14枚）が崩れ、玉外しのために側にいた労働者2名が、崩れてきた荷と隣にあった荷（積み重ねられた鋼板）に挟まれた。	11209	50～ 99
2013	11	12 ～ 13	20トン天井クレーンを用いて、積み重ねた鋼板5枚（約5トン）の上に置き、玉外しを行ったところ、降ろしたに鋼板とともに積み荷（鋼板約14枚）が崩れ、玉外しのために側にいた労働者2名が、崩れてきた荷と隣にあった荷（積み重ねられた鋼板）に挟まれた。	11209	50～ 99
2013	2	10 ～ 11	建設現場で解体された足場板を小型移動式クレーン付きトラックに積み、足場材の所有者の倉庫まで運搬していた。荷崩れを発見した運転手が道路脇にトラックを止め、荷崩れを直していたところ、足場板（計50枚を番線で結束したもの）が落下し、運転手がその下敷きとなった（足場板1枚の重量12.5kg）。	80209	30～ 49
2013	7	15 ～ 16	橋形クレーンを用いてH鋼を荷降ろしをしていたところ、2段重ねに仮置きされたH鋼が、被災者の胸部に崩れ落ち下敷きとなった。	11209	30～ 49
2013	11	16 ～ 17	ダム洪水吐ゲートの扉体を取り替えるため、解体した扉体（重量約4t）をケーブルクレーン（つり上げ荷重6.6t）で左岸側にある仮置き場に降ろした。玉掛用ワイヤーロープを取外すため、クレーンフックを下げ同ワイヤーロープを緩めたところ、解体した扉体が倒れ、脇にいた被災者に激突し、扉体と仮置き場に設置されていた手すりに頭部を挟まれた。尚、被災者は玉外しをするために扉体脇を移動していたと推測される。	30101	10～ 29
2013	5	8 ～ 9	門型クレーンを用いて山留材出荷の段取りを行うにあたり、門型クレーンの軌道上に3段に段積みしていた山留材があり接触する見立てがついたため、最下段の山留材の一方の端に玉掛けし、他方の端は地切りさせず支点とし、半弧を描く様に一方の端を数10cm移動させたところ、段積みになっていた山留材が崩壊した。状況を把握するため被災者が山留材に近づいたところ、再度山留材が崩壊し、被災者が下敷きになった。	80109	1～9

2013	5	16 ～ 17	インジェクション成形機の金型保管場所で、金型を金属製ラックにしまう作業をしている際、金型が手前に倒れてきて体の右側に当たり転倒した。	10805	100 ～ 299
2012	11	15 ～ 16	資材置場において、被災者が新たに購入した鋼板を置きやすくするため、鋼板を立てて置く場所に仕切りとして設置してあったC形チャンネル材の溶断作業を行っていたところ、最後の1本を溶断中、鋼板置場に立掛けてあった鋼板が被災者を直撃した。	30309	10～ 29
2012	3	16 ～ 17	被災者はトレーラーの荷台からコイル状の鋼材の荷卸し作業中に、当該鋼材4巻（約2.8t、直径1.5m）が何らかの原因で倒れたため、その下敷きになった。	40301	1～9
2012	8	15 ～ 16	被災者はタンク（重量約0.8 t）のマンホールを上にして架台上に設置（アングルで固定）し、単独でショットブラストにより表面処理を行っていたところ、他の作業者にタンクのマンホールと架台の間に挟まれている状態で発見され、救急搬送先の病院で死亡した。	11209	10～ 29
2012	8	14 ～ 15	トラックで運ばれてきた鋼材144枚（約12 t）を、天井クレーン（定格荷重20 t）を使用して、資材置き場に先に積んであった鋼材の上に積み重ね、被災者が玉外しを行おうと近づいたところ、直前に積んだ鋼材144枚が崩壊してその下敷きとなり、全身を強く圧迫され死亡した。	11502	300 ～
2012	8	16 ～ 17	被災者はショットブラストで鋼材を研磨加工をしていたところ、積み重ねていたH型鋼材（長さ約3m、重さ約300 k g）が崩れ、この下敷きとなって死亡した。	11209	10～ 29
2012	6	18 ～ 19	翌週の作業の準備終了後、被災者は製品置き場にあった金属製ラックにぶら下がったところ、ラックが倒れ、その下敷きとなって死亡した。	11209	30～ 49
2011	8	8 ～	工場内で被災者が、建屋の鉄骨に立てかけてあった製作中の歩廊（長さ5.4 m・幅2.3 m・厚さ0.2 m・重さ約1 t）を天井クレーン（定格荷重2.8 t）で塗装場所に移動させるため、同僚の指示でクレーンのフックに	11209	1～9

		9	ワイヤーロープを掛けようと歩廊に足をかけて上ろうとしたところ、歩廊が倒れ、胸付近より下部が下敷きとなった。また頭部も地面で強打し、心臓破裂・脳挫傷により死亡した。被災者は保護帽未着用。		
2011	6	10 ～ 11	工場内で鋼管製の橋脚の製造を行っていた被災者が、外径110cm、長さ82cm重さ約1tの鋼管をH鋼に車輪を上向きに2カ所取り付け付けた設置台2本を並べた上にクレーンで横向きに載せ、周溶接を行うための裏当て金を取り付けていたところ（推定）、当該鋼管が設置台からずれ落ち半回転する形で倒れたため、鋼管の内面にドーナッツ型に取り付けられていたスチフナー等に上半身を挟まれた。	11209	1～9
2011	4	13 ～ 14	（092）3月11日の地震に伴う液状化現象により、鋼材を積んだ倉庫内に泥が隆起したため、泥を除去する作業中に発生。3人の作業員がI形鋼を5段積んだ鋼材の山をクレーンで他の場所に移動させ、当該部分に隆起した泥をスコップで一輪車に積み込み、外に運搬する作業中、隣に積まれていたI形鋼13段（高さ約1m）の山が突然倒れ、近くにいた被災者が下敷きになり死亡した。	80109	1～9
2011	4	11 ～ 12	作業架台を解体作業において、作業開始時、架台の脚部に掛けていた倒壊防止用の玉掛け用布ロープを外した状態で架台の天板を確認していたところ、架台が作業側側に倒れ、腰を挟まれ内臓破裂により死亡した。	11209	1～9
2011	12	10 ～ 11	座礁した堆砂処理船をガス溶断して分解撤去するため、L字状に残った船の側壁をガス溶断していたところ、溶断途中で破断して、側壁が被災者の方向に倒壊して下敷きになった。	30309	10～ 29
2010	11	10 ～ 11	自社工場内において、被災者は、H鋼（120cm×117cm×25cm、重さ約230kg）に、最大使用荷重500kgのつりクランプ2個を用いて玉掛けし、天井クレーン（2.8t）にて溶接作業場所まで移動させる際、H鋼を立ててクランプのかけ替え作業を行っていた時に、H鋼のバランスが崩れて当該H鋼とともに倒れ、被災者がその下敷きになったもの。	11209	30～ 49
			被災者は長さ2.5～4mの単管約60本の束を2.93t吊り積載型移動式クレーンの荷台に積み込むため、無線操作し地上よりつり上げて旋回した		

2010	11	13 ～ 14	ところ、荷が傾き落下し、移動式クレーンにもたれかかる状態となった。被災者はもたれかかった荷を地面に下ろすため玉掛け用ワイヤーロープを外し、再度玉掛けを行っていたところ荷が倒れ、荷と共に荷台より墜落し、荷と地面に頭を挟まれた状態となり死亡した。	40301	30～ 49
2010	11	9 ～ 10	機械工の被災者が1人作業で、重さ約400kgの円形の鋼材（名称：外輪）を切削加工機械で切削加工をするために、30tのクレーンで吊り上げて、外輪を固定するための金具（2箇所）に外輪を仮置きして、クレーンのフックからワイヤーを外したところ、外輪が倒れかかり、被災者が外輪の下敷きとなり死亡した。	11209	1～9
2010	3	10 ～ 11	工場敷地内の屋外製品置場において、被災者（技能実習生）と同僚は製品の受け台（H形鋼で600mm×200mmを2本並列）の上に置かれている大梁（建築用の大梁のH形鋼、500mm×200mm（14本）を2層に積み上げた状態）に雨がかからないように養生シートを被せ、大梁の下に入り、養生シートを固定するため紐を掛けていたところ、製品の受け台が倒れたため、大梁が40cm下降して挟まれた。	11209	1～9
2010	1	14 ～ 15	工場内の製品出荷場所において、出荷を担当する被災者が、上段の鉄骨が崩れて胸部を鉄骨に挟まれた状態で発見された。被災者は災害発生日の翌日に出荷を行う建築用鉄骨（長さ4.645m、幅0.55m、重さ約2.5t）を橋型クレーンにて上下2段積みで出荷場に並べる作業を1名で行っており、目撃者はいない。発見時、玉掛け用具は鉄骨から外れた状態。使用していたクレーンのつり上げ荷重は10.1t。玉掛けは3.2t用つりチェーンを使用。被災者は資格有。	11209	30～ 49
2010	1	18 ～ 19	建築物用のH鋼柱（長さ約8m、重量約3.5t）製作作業において、被災者が鋼板の溶接作業をしようとH鋼柱を横にして2台の架台（高さ1.2m）の上に載せ、H鋼柱の仕口（梁を取り付けるために張り出した部分）に手を掛け乗ろうとしたところ、被災者側にH鋼柱が倒れ、その部材の一部が頭部及び腰部に強く当たり死亡した。もう1人の被災者は既にH鋼柱に乗っており、倒れるときに飛び降りて両足を骨折した。架台の上に置いたH鋼柱	11209	50～ 99

			に転倒の防止措置をしていなかった。		
2010	1	9 ～ 10	トレーラーの荷台に鉄骨加工品（ビルの柱、1本500kg）を19本載せ、内5本を被災者を含む2名でワイヤーロープにて束ねていたところ崩壊し、荷台から5本とも落下した。被災者は鉄骨加工品が落下する前に自ら飛び降りたが逃げ切れず、トレーラー横に仮置きされた鉄骨加工品と落下した鉄骨加工品の間に頭部を挟まれ死亡した。	40301	10～ 29
2009	5	11 ～ 12	被災者は、同僚3人と貨物用コンテナ横に置いていたバンパー等の廃材を片付けていたところ、当該コンテナに部分溶接して立てかけてあった鉄板（縦2m×幅6m×厚さ1cm×重さ約1,120kg）が倒れてきて、鉄板と廃車の間にはさまれた。	150102	10～ 29
2009	6	14 ～ 15	火力発電所の脱硫装置のダクトとなる高さ約10m、幅約5m、重さ約2.5tの鉄板を方形に組む作業を行っていたところ、ダクトをU字型にまで組み上げたところで南側の鉄板が内側に倒れこみ、それに合わせて北側の鉄板も内側に倒れこんだため、内部で作業していた作業員3人がその下敷きとなった。	30201	30～ 49
2009	6	14 ～ 15	火力発電所の脱硫装置のダクトとなる高さ約10m、幅約5m、重さ約2.5tの鉄板を方形に組む作業を行っていたところ、ダクトをU字型にまで組み上げたところで南側の鉄板が内側に倒れこみ、それに合わせて北側の鉄板も内側に倒れこんだため、内部で作業していた作業員3人がその下敷きとなった。	30201	30～ 49
2009	7	14 ～ 15	下水道の敷設工事にて溝掘削を行い、下水管を敷設後、埋め戻しの作業を溝内で行っていた。溝内の埋め戻し土が次の作業箇所流れ込むのを防ぐため、仕切りの鉄板（1.8m×0.9m、289kg）を溝内の土止め支保工の切梁に立て掛けるように仮置きし、少しの間、被災者が人力で鉄板を支えていたが、他の段取りをするため、溝内を移動した際に、突然、鉄板が倒れ、その下敷きになった。	30199	10～ 29
2009	2	10 ～ 11	プロテクター(板状の鋼材、重量1.7t)につりピースを溶接により仮付けし、シャックルをつりピースに取り付け、繊維ロープで天井クレーンにより1本つりの状態で、縦に起こしたところ、つりピースの溶接箇所が破断して、プロテクターが倒れて被災者が下敷きになった。	11209	30～ 49

2009	9	14 ～ 15	被災者は、商店の土場にてトラックからH形鋼（長さ4.5m×幅0.5m×高さ0.2m）の荷降ろし作業中、移動式クレーンでつり上げた同鋼材を高さ3.0mの位置に静止させていたところ、同鋼材が回転したため以前から積み上げられてあった他の鋼材に激突し、この勢いで倒れた鋼材（総重量4.16t）の下敷きになった。	150102	10～ 29
2008	1	10 ～ 11	船体ブロックの小組み作業で、クレーンで運搬してきた部材(長さ3.33m、高さ2.45m、幅0.9m)からつり具を外したところ、部材が倒れて部材同士の間にはさまれ、死亡した。	11501	10～ 29
2008	8	17 ～ 18	被災者は造船所構内のブロック小組工場において、天井クレーンを使用して船体ブロック部材の配材作業をしていた。被災者が仮置きした船体ブロックの部材（630kg）が被災者の方へすべり落ちてきたため、当該部材の下敷きとなり死亡した。	11501	10～ 29
2008	4	16 ～ 17	船体ブロックの製造のための仮溶接作業を3人（クレーンオペ含む）で行っていた。ブロックの部品であるウェブビーム（重量2.5t）をクレーンで保持させて鉄板の上に立たせたまま仮置きして仮溶接を行った。片側だけレバーブロックを使用して、ウェブビームと下の鉄板を密着させた状態で玉はずしを行ったところ、レバーブロックで引いている被災者側へウェブビームが倒れて身体をはさまれて病院で死亡した。	11501	30～ 49
2008	7	8 ～ 9	I型鋼材（歩道橋の主桁、重量約1t）のひずみ取りの作業中、架台に立てていたI型鋼材が被災者に倒れてきた。被災者は当該I型鋼材に押し倒されて、被災者の後方に立てて置かれていた鋼材（歩道橋の横リブ）に身体を打ちつけて死亡した。	11209	30～ 49
2008	3	9 ～ 10	資材置場において、資材移動等を行うために移動式クレーン等を用いて5人の作業員で作業をしていた。被災者は移動式クレーンの付近でがれきの片付けを行っていたが、移動式クレーンの作業が開始されるため、移動式クレーンの付近から離れて別の移動式クレーンの部品であるアームが2つ重ねておいてある場所へ移動した。そのときに2つ重ねてあるアームのうち、上の1つ	30309	30～ 49

			が転がり落ちて被災者に激突した。		
2008	2	9 ～ 10	被災者は、プレス機械を使用して自動車部品を製造していたが、原材料のコイル材がなくなりかけたため、隣接するコイルヤードに取りに行った。コイルヤードで使用するコイル材とは別のコイル材をクレーンで移動しようとして、立てかけられたコイル材とコイル材の間に木製のくさびを入れ玉掛けワイヤーをコイル材の中心部の空間に通したところ、コイル材が被災者側に倒れて下敷きとなった。	11502	50～ 99
2008	1	15 ～ 16	工作機械のフレーム（鉄製のL字型、重量約1.4t、高さ2.6m×幅3.6m×厚さ0.16m、L字の底辺部分は幅0.85m）を工作台上で溶接作業を行っていたところ、フレームが倒れて溶接作業を行っていた作業員1名と、付近で現図を書いていた作業員1名が下敷きになった。溶接作業員は身体の一部をはさまれて軽傷、現図を書いていた作業員は身体を圧迫されて死亡した。	11301	50～ 99
2008	10	17 ～ 18	仮置きしていた組立鉄筋（重さ約2.1t、高さ2.4m×長さ約7m×最大幅1.7m）が崩れたため、立て直すために橋型クレーン2台を使用して組立鉄筋に単管を通し、その単管の2点に玉掛けワイヤーを通す作業をしていたところ、組立鉄筋が再び倒れて被災者が下敷きになった。	10901	10～ 29
2008	3	13 ～ 14	4tトラックにスキット（スチール梱包材）4枚(約194kg×3、約318kg×1)を2.8tクレーンで積み、スキット上で玉掛けワイヤロープを外していたところ、最上段のスキットが滑り落ちて、トラックの横を歩いていた被災者に激突し、隣に積まれていた鉄板との間にはさまれて死亡した。	11209	1～9
2008	5	14 ～ 15	4tトラックで金属のスクラップを回収して納品先の構内で金属スクラップの荷卸を開始した際、荷台の上のスクラップに直接乗って締め付け金具を外したところ、金属のスクラップが崩れて被災者がバランスを崩して荷台より落下した。その直後に荷台から束ねられたスクラップ（770kg）が被災者に落下して死亡した。	11709	1～9
2008	3	16 ～ 17	被災者は5.1tクレーンでH鋼（長さ10m、重さ1t）を移動させていたところ、積み上げてあったH鋼が崩れて被災者に落下した。災害発生当時、被災者は1人でクレーンおよび玉掛け作業を行っていた。	11209	10～ 29

2007	6	15 ～ 16	ガードレールを積載形移動式クレーンにより荷台に積み込む作業中、荷台に載せたガードレールの玉外しをしたところ、ガードレールが荷崩れをおこし、ガードレールと一緒に荷台より墜落し、下敷きとなった。	80109	1～9
2007	5	11 ～ 12	工場内で、建築部材である鋼製の梁（縦約2 m、横約1 0 m、重さ約7 0 0 ～8 0 0 k g）の組立て溶接作業中、作業台の上に縦置きしていた当該梁をクレーンでつり上げる直前に、当該梁が倒れ、逃げ遅れた被災者に当たった。	11209	50～ 99
2007	10	14 ～ 15	瓶の洗浄機械プラントの解体撤去工事中の作業で、洗浄装置外枠鉄板を溶断中の被災者に、ガス溶断で切断された鉄板が倒れてきて、被災者が下敷きになった。あらかじめチェーンブロックでつり上げられた鉄板を切断する作業をしていたが、つり上げていた部分がスプロケットと呼ばれる軸であったため、鉄板に付いていた軸受けから切断の衝撃で、スプロケットが抜けてしまった。	30309	10～ 29
2007	1	9 ～ 10	仮置きしていた制御盤の四方に立て掛けていた鉄板のうち、制御盤前面の鉄板を取り除き、制御盤前面で被災者が制御盤内部を確認していたところ、制御盤が倒れ下敷きとなった。鉄板は切断後の残材であり、全部で1 1 0 枚、1枚あたり重量2 0 k g～3 0 k g、寸法は多種（最大2. 4 m×0. 6 4 m）であった。	11402	100 ～ 299
2007	3	18 ～ 19	ロールの局部焼き入れするための治具（円筒形の籠ステンレス鋼、長さ1. 3 m、直径4 5 c m重量4 0 k g）にロール2本（材質S S材、1本1 9 0 k g、長さ2. 3 m、直径1 2 c m）を入れて、設置していたところ、ロールが入っている治具が倒壊し、被災者が下敷きとなった。	11209	50～ 99
2007	3	12 ～ 13	N Cフロアボーリング盤により工作機械フレーム（W1 0 0 0×D1 0 0 0×H2 0 0 0約2 t）の穴あけ作業を行うため、フレームをN Cフロアボーリング盤にセットし、油圧ジャッキを用いてフレームを乗せている架台の調整を行っていたところ、当該フレームが被災者に向かって倒れ、その下敷きとなった。	11209	100 ～ 299
		16	学校などで使用する耐震補強材を作成中、次の補強材を作成するための材料であるH鋼（2 5 0×2 5 0×1 7 0 0 mm：約1 2 0 k g）をクレーンに		

2007	7	～ 17	て移動させ4本ずつ積み上げていたところ、バランスを崩したH鋼の荷（8本）が被災者側に倒れた。	11209	1～9
2007	2	～ 18	被災者は、資材置場内に置かれていた「I型鋼」の上で作業等を行っていたところ、転落した「I型鋼」と隣に置かれていた「I型鋼」の間にはさまれた。	11209	100 ～ 299
2007	6	～ 10	土留めのためのH鋼埋め込み、引抜きを請け負い、被災者がトレーラーの荷台上で積載してある10本1束のH鋼を5本ずつに分けるため、クレーンオペレーターと手合図を交わしながら、ワイヤロープでつり上げたところ、H鋼が荷崩れし、H鋼1本（重量450kg）とともに地面に落下し、H鋼の下敷きとなった。	30201	10～ 29
2007	1	～ 14	倉庫において、床上クレーンを用いて鋼材の束を整理する作業中、積上げられた鋼材の束が崩れて下敷きとなった。	11209	10～ 29
2007	1	～ 12	足場用資材を積んだトラックを移動させる際、被災者2名は、荷台の上で資材が動かぬように手で押さえていたところ、トラックが上り勾配でスリップし、運転手がブレーキを踏んだ時に、その反動で押さえていた資材が崩れ、被災者に当たり死亡した。	30309	1～9
2006	12	～ 17	工場内において、労働者4名が、製品の電極板出荷のための梱包作業中、電極板12枚を立て掛け、13枚目の陽電極板（縦1.4m、横2.5m、重さ125kg）を立て掛けようとしたところ、突然、電極板が倒れ、被災者がその下敷きとなった。	11301	10～ 29
2006	11	～ 1	トレーラーの荷台で型枠用鉄板の積み込み作業中に荷崩れし地面に墜落し、鉄板の下敷きとなった。	40301	10～ 29
2006	12	～ 15	被災者外1名で、工場内で建築用の鉄骨の溶接作業を行っていた。溶接していた鉄骨（H型鋼、重量約1.5トン）は2階建て建屋の角部分の柱で、1階及び天井部分の梁が二方向についていた。この鉄骨を横向きにして2本の	11209	10～ 29

		16	架台に乗せ、被災者らが溶接後のバリ取り作業を行っていたところ、鉄骨が倒れ、床にうつぶせに倒れた被災者が、鉄骨の梁の先端部と床に挟まれた。		
2006	10	13 ～ 14	製造ラインの中のバケットエレベーター（原料を低所から高所へ搬送させるための設備）の腐食した部分を取替える作業において、移動式クレーンを使用して取替える部分を床に荷降ろしし、当該クレーンで保持した状態で被災者が荷に上がって作業を行っていたが、クレーンのフックを外したところ、荷が倒れ、荷と建物とに挟まれた。	11209	1～9
2006	7	14 ～ 15	コイル状鋼材（直径1.7m、厚さ0.2m、重量2t／個）2個を停泊中の船内へ積み込むため、2名の作業員で玉掛作業を行っていたとき、コイル状鋼材の中心の穴に通したチェーンスリングを被災者が玉掛のため引いたところ、当該鋼材が被災者側に転倒した。	50202	10～ 29
2006	3	16 ～ 17	鉄骨材を荷台に積み、貨物自動車（最大積載荷重3t）にて構内加工工場から同構内資材置場に運搬し、被災者が荷解き作業を行っていた時、突然鉄骨材が崩れだし被災した。	11209	10～ 29
2006	2	14 ～ 15	密着して立て掛けてあったスチールコイル（直径178cm、幅5cm、重さ890kg）をクレーンで運ぶためコイル間に隙間をつくる作業をしていたところ、コイルが倒れた。倒れたコイルの内側がばらけたため、元に戻そうとコイル間に体を入れたところ、他のコイル4巻が倒れコイルの間に挟まれた。	11502	100 ～ 299
2005	4	9 ～ 10	工場内において、不要になった鉄板を立て掛けておく整理枠と鉄板の撤去作業中、被災者が立て掛けてあった鉄板と鉄板の間に立ち入ったところ、鉄板3枚（1枚の重さ200kg）が突如倒れ、これに挟まれた。	11209	30～ 49
2005	4	10 ～ 11	多機能ダストホッパーの組付け作業中、円筒（直径3m、長さ2m、重さ1.8トン）の接合面に接着剤を塗る作業において、横倒しになっている円筒の内側に入り込んだところ、円筒が起き上がり、その円筒の下敷きとなった。	30302	1～9
2005	10	14 ～	事業場の外壁に立て掛けておいたアルミサッシ（1枚の重さ10kg）のうち壁側のアルミサッシを抜き取る作業を行っていたが、被災者が10枚のアルミサッシを手で垂直に支えている間、他の作業員がアルミサッシを抜き取ろう	10503	1～9

		15	としていたところ、被災者がアルミサッシを支えきれずに後ろ向きに転倒してアルミサッシの下敷きとなった。		
2005	11	10 ～ 11	土止め作業において連結鋼矢板を車両系建設機械を使用して玉掛作業で運搬中、足元が滑り転倒した。さらに、そのはずみで立てかけ状態であった当該鋼矢板(重さ260kg) が倒れ、被災者に激突した。	30199	1～9
2005	6	12 ～ 13	ブロックのフロア部の部品をリモコン操作の天井クレーンで操作し移動していたところ、先に配材した部品（重さ1.8トン）が被災者に倒れかかった。	11501	300 ～
2005	11	10 ～ 11	鉄板とH鋼材を溶接していたところ、鉄板（重さ800kg）が作業していた被災者側に倒れた。	30199	10～ 29
2005	8	11 ～ 12	H鋼のガス溶断作業中、H鋼の間に挟まれた。	80109	10～ 29
2005	4	16 ～ 17	資材センター内において、角パイプを選抜していた際に、当該パイプが崩壊し、崩壊したパイプ40本（重さ300kg）の下敷きとなった。	30199	10～ 29
2004	3	11 ～ 12	立抗掘削時に使用する鋼管ケーシングの製作過程において、鋼管ケーシングを回転させるターニングロールにケーシングを載せ、ケーシングジョイント用の穴あけのため寸法取り作業中、当該ケーシングが倒れ、作業中の製缶工がケーシングの下敷きになり死亡した。	11209	1～9
2004	4	10 ～ 11	ビニールハウスの材料を荷下ろしするため、トラックの荷台上で玉掛け作業中、荷崩れを起こした材料とともに転落した。	40301	10～ 29
2004	10	14 ～ 15	工場内で鉄骨階段の製造中、塗装用架台上に並べ置いた鉄骨階段の部分品の間で塗装作業を行っていたところ、同架台上で将棋倒し状に倒れた同部分品（重さ約0.4 t）に挟まれた。	11209	10～ 29

2003	12	10 ～ 11	鋼板メーカーに返品するコイルの束（1巻き約800kg、5束）を加工工場から別の場所に移動させるため、天井クレーンの補巻（定格荷重5t、主巻は10t）で電動式の搬送台に移し、搬送台を移動し始めたときに載せていたコイルの束が崩れ、逃げ切れずに崩れたコイルの下敷きになった。	11509	300 ～ 499
2003	9	11 ～ 12	H形鋼のサビ落とし作業中に、H形鋼を載せるローラー付き構台から60cm程離れた場所に2段で積まれていたH形鋼の2段目の端部分のH形鋼（縦60cm×横20cm×長さ9m、1本当たり質量約800kg）3本が崩れ落ち、うち1本が背中に当たってH形鋼と構台との間にはさまれた。	11209	10～ 29
2003	7	16 ～ 17	製鋼工場造塊ヤードの釜台車の解体作業で、ガス溶断をしていたときに仮置きしていた釜台車の防護壁が倒れて下敷きになった。	30309	30～ 49
2003	4	14 ～ 15	工場内において、船舶上部工の部材の組立てのため底板にアーク溶接で鉄製の壁部材（2,270mm×2,430mm×10mm、質量約400kg）の仮付けをしていたときに、壁部材が倒れて台座鋼との間に頭部をはさまれた。	11209	50～ 99
2003	4	16 ～ 17	直径1400mm、幅600mm、厚さ25mm、重さ550kgの鋼管を、ローラーの上に載せて開先作業を行っていたところ、鋼管が倒れてきて下敷きとなった。	11301	10～ 29
2003	3	11 ～ 12	配送されてきた水道管（径1.5m、長さ0.8m、質量1.77t）を、傾斜（約8度）している作業ヤードに止めたトラック上で、荷締めワイヤを取り外してベルトスリングを通すため、管に被せられていたブルーシートに穴を開けようと荷の下手（傾斜の）側で作業していたときに、荷のバランスが崩れて落下し下敷きになった。	30110	50～ 99
2003	2	15 ～ 16	出張作業の工場内において、並べて仮置きしてある鉄製型枠材（縦120cm、横378cm、厚さ33cm、質量約2t）を移動させるため、クランプで玉掛けして2.8t天井クレーンでつり上げようとしたが、つり上げることが出来ないの で原因を探っていたときに、玉掛けしていない別の型枠材が倒れて下敷きになった。	11209	100 ～ 299
		9	横5.5m、高さ2.3m、幅30cm、重さ1tの建築用梁材を馬（台）に乗せて		

2002	12	～ 10	溶接作業中、馬と梁を固定していたクランプを外して梁の脇にいたときに、 梁が倒れてきて別の鉄製台との間に頭部を挟まれた。	11209	10～ 29
2002	11	～ 15	道路拡幅工事において、水路用溝（深さ1.8m、幅1.2m、延長26m）を掘削して土止め用の鉄板（長さ6.1m、高さ1.5m、厚さ25mm、質量1.8 t）をドラグショベルで降して木片（長さ1.3m及び1m）2つを組み合わせもの一点で仮支えし、もう1枚をつり降ろした後に溝内に入り切梁の長さを測定していたときに、木片の支えが外れて倒れてきた鉄板に頭部を挟まれた。	30106	1～9
2002	8	11 ～ 12	タンカー船体ブロックの組立で、三角形の鉄製補強板を取りつけているときに、補強板（重さ約1.6t）が倒れ下敷きになった。	11501	50～ 99
2002	6	15 ～ 16	橋梁用鋼製桁（高さ2.1m、重さ5 t）をハッカーで玉掛けして25 t クレーンで吊上げたところ、作業変更となったので一旦桁を元の位置に降ろしてハッカーを外しクレーンを巻き上げたときに、ハッカーの爪が桁に引っ掛かったためその下敷きになった。	11209	1～9
2002	5	9 ～ 10	パワーショベルの解体作業でショベルのアームと車体をガスで切断し、その後アームが倒れ落ちる場所を整理していたときに、アームと車体が完全に切断されていたためアームが倒れその下敷きになった。	80109	1～9
2002	4	8 ～ 9	工場新設工事現場に4 tトラックで鉄骨材3本（1本約1 t）を運搬し、荷台上で台付けワイヤーロープを解いた状態で待機していたときに、鉄骨2本が崩れたため荷とともに地上に落下し下敷きになった。	40301	10～ 29
2002	4	11 ～ 12	発電設備であるガスタービンの鉄製防音カバー（天井部分と側壁2面がボルトにより結合されたもので、質量約1.1t）内側のシート張りと解体作業中、倒壊防止のための補強が不十分であったためカバー倒壊し、中で作業していた2名のうち1名がカバーの下敷きになり死亡し、1名が骨盤、脚を骨折した。	11209	1～9
2002	2	16 ～	足場資材置場で小型移動式クレーンを用いて足場資材の荷下ろし作業中、約4mの高さに積み上げられていた足場資材が荷崩れを起こして崩壊し、足場	170209	1～9

		17	資材の間に胸部を挟まれた。		
2002	2	14 ～ 15	工場内材料置場において、鉄製のラックに立て掛けられたコイル状の金属材料（幅22mm、直径100cm、質量約108.5kg）が15個バンドで結束されたもの（総質量1630kg）を近くのプレス機械のところへ運搬するためバンドを切断したところ、金属材料が倒れてラックと材料の間に首が挟まれた。	11203	10～ 29
2001	12	9 ～ 10	吊上げ荷重4.8tのクレーンで、塗装済の鉄骨を吊上げて運搬していたときに、工場内に2段に重ねていた鉄骨が突然崩れ、崩れた鉄骨とその脇に置いてあった鉄骨との間に挟まれた。	11209	10～ 29
2001	10	17 ～ 18	トラス(鉄骨建築梁材)の溶接作業のため、吊り上げ荷重2.8tの天井クレーンでトラスを立たせ、玉掛け用具のクランプを外し、クレーン運転者がクランプを巻き上げていたときにトラスに引っ掛かったためトラスが倒れて胸部を直撃した。	11209	10～ 29
2001	10	16 ～ 17	倉庫の解体工事で、解体した鉄骨をトラックで運びやすいように地上でガス溶断を行っていたときに、後に立てていた鉄骨が倒れてきて頭部が鉄骨と鉄骨との間にはさまれた。	30309	10～ 29
2001	7	8 ～ 9	国道の法面修繕工事において、長さ6mの鋼矢板の束(10枚：3.6t)を25t移動式クレーンで移動するため玉掛け作業を行っていたところ、移動する鋼矢板の束の後方に2段に積み重ねられていた鋼矢板の束(計20枚)が倒壊し下敷になった。	30106	1～9
2001	5	15 ～ 16	エンジンの改善作業場において、納入された鋼材20本(195kg)を棚に載せる作業が終了したときに、突然棚の支柱の溶接部が破断したため、棚に載っていた鋼材が崩れ、その下敷きになった。	11502	1000 ～ 9999
2001	3	16 ～ 17	工場に材料が届いたのでそれを整理するため、整理棚に立掛け、次の作業場所へ移動しようとしたときに、棚が2tの材料とともに倒れ下敷きになった。	11209	1～9
2001	4	13 ～	シャーで配電盤用の鋼板加工を行っていて、壁に立てかけてあった鋼板を選定し抜き取ろうとしたところ、鋼板約50枚(重量約400kg)が倒れてきて鋼	11209	1～9

		14	板とシャーとの間に挟まれた。		
2001	2	16 ～ 17	ダムスクリーン(流木などをせき止めるためのステンレス製のすのこ)を立てた状態で溶接作業を行っていたときに、スクリーン(質量約1t)が倒れて下敷になった。	11209	1～9
2001	1	11 ～ 12	船体の前方下部に使用される鋼板(重量3290kg、厚さ15.5mm)を盤木の上に置き鋼板の3次元曲げのため鋼板の下に潜って裏焼きをしているときに、鋼板が落下し骨盤より上の上半身が下敷きになった。	11501	300 ～ 499
2001	1	10 ～ 11	溶接されたH鋼の製作時に発生するフランジのひずみを矯正する作業中に、次にセットする準備として立てかけてあったH鋼(重さ約3t)が倒れ矯正装置のローラー荷台との間に体をはさまれた。	11209	10～ 29
2000	5	0 ～ 1	資材収納籠の周囲をコの字形に囲んだ簡易焼却場の一部を改造しようとして、鉄板(3m×1.5m、質量900kg)と収納籠との間に胸部を挟まれた。	80409	1～9
2000	8	15 ～ 16	制御盤扉の二次加工のため扉の鉄板材料(質量48kg)を並べ替えていて、取り出そうとした鉄板に他の2枚がくっついてきたため、支えきれずそのまま後方へ倒れ、鉄板の下敷きになった。	11209	1～9
2000	6	11 ～ 12	製作所で切り込みを入れた鉄板をハンマーでくり抜いていたところ、後方に立て掛けられた鉄板(長さ240cm、幅50cm)が倒れてきたため鉄板と台車との間に挟まれた。	11209	50～ 99
2000	2	14 ～ 15	コイル状のプレス加工材を自動供給装置へセットするための搬送機であるコイルカー上に立ててあったコイル(質量500kg)が倒れたためコイルの収納作業中の者が下敷きになった。	11209	50～ 99
2000	8	9 ～ 10	学校の耐震補強工事に使用する鋼材の耐震補強フレーム6枚(一枚1t～1.5t)を、トラックで搬入し、耐震補強フレームを1枚取り除いたときにトラックが傾いて耐震フレーム5枚と荷台に乗っていた者が墜落し、その下敷きになった。	30309	1～9
		16	台車上のハンガーに掛けられたパレット(立体駐車場用の鉄板)を10t橋形ク		100

2000	4	～ 17	レーンで製品置き場に下ろす作業中、1枚のパレットをハンガーから外し、もう片方の玉掛け作業を行っていたときにハンガーが倒れてきてパレットの下敷きになった。	11502	～ 299
1999	11	～ 10	製品検査のため11本並べてあった建築用鉄骨(重量約2t)の4本?8本の鉄骨が将棋倒しに倒壊したため、10本目と11本目間でケレン作業をしていた者が鉄骨間に体を挟まれた。	11209	1～9
1999	10	13 ～ 14	庄延工場の製品ストックヤードで鉄筋束を天井クレーンでトレーラーに積み込み作業中、近くに積み重ねてあった鉄筋束の「はい」(高さ・約2.8m、8段積み)の上部5段(約20トン)が崩壊したため、脇にあった鉄筋束の「はい」と崩落した鉄筋束との間に全身を挟まれた。	11001	100 ～ 299
1999	7	～	高速道路防護壁の支柱材料(長さ5.6m、4.5t)11本を工場内で移動するため、クレーンで4tトラックに6段と5段の2列に積んで運び、トラック荷台上で2列目の5段を卸して玉掛けワイヤーを外したところ、先に積んであった6段積の材料といっしょに荷崩れを起こしたため荷台上から材料4本とともに地上に落下し、その下敷きになった。	11204	30～ 49
1999	4	～ 19	積載型移動式クレーンで鋼製の矢板3枚を荷降しして、玉掛けワイヤーロープをフックから外して抜き取ろうとしていたところ、最上部の矢板が反転して崩れたため頭部を挟まれた。	30110	30～ 49
1999	2	9 ～ 10	車を横向きに立てフロントドライブシャフト、足回り部品をインパクトレンチを用い取り外す作業中に横向きに立てていた車が倒れてきて挟圧された。	80109	1～9
1999	1	9 ～ 10	仮橋に使用したH鋼をドラグショベルで道路脇に片付ける作業で、先に置いてあったH鋼の上に降ろしたのち玉掛けワイヤーを外してショベルで引き抜こうとしたところ、突然H鋼が崩れ落ち、玉外しをした者がH鋼の下敷きになった。	20202	1～9

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。